

# ASIA Indicators

定例経済指標レポート

## 豪州の雇用は予想外に堅調 (Asia Weekly (8/6~8/10))

~インドの生産を取り巻く環境は一段と厳しくなっている~

発表日: 2012年8月13日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/6 (月)	(台湾) 7月消費者物価 (前年比)	+2.46%	+1.95%	+1.87%
	(インドネシア) 4-6 月期実質 GDP (前年比)	+6.37%	+6.10%	+6.32%
8/7 (火)	(豪州) 金融政策委員会 (政策金利)	3.50%	3.50%	3.50%
	(台湾) 7月輸出 (前年比)	▲11.6%	▲7.7%	▲3.2%
	7月輸入 (前年比)	▲3.2%	▲7.0%	▲8.4%
8/8 (水)	(フィリピン) 7月消費者物価 (前年比)	+3.2%	+3.1%	+2.8%
	(マレーシア) 6月輸出 (前年比)	+5.4%	+3.1%	+6.7%
	6月輸入 (前年比)	+3.6%	+8.8%	+16.2%
8/9 (木)	(韓国) 金融政策委員会 (政策金利)	3.00%	3.00%	3.00%
	(豪州) 7月失業率 (季調済)	5.2%	5.3%	5.3%
	(中国) 7月消費者物価 (前年比)	+1.8%	+1.7%	+2.2%
	7月生産者物価 (前年比)	▲2.9%	▲2.5%	▲2.1%
	7月鉱工業生産 (前年比)	+9.2%	+9.7%	+9.5%
	7月小売売上高 (前年比)	+13.1%	+13.5%	+13.7%
	1-7 月固定資産投資 (前年比)	+20.4%	+20.6%	+20.4%
	(マレーシア) 6月鉱工業生産 (前年比)	+3.7%	+4.8%	+7.8%
	(インド) 6月鉱工業生産 (前年比)	▲1.8%	+0.4%	+2.5%
(インドネシア) 金融政策委員会 (政策金利)	5.75%	5.75%	5.75%	
8/10 (金)	(シンガポール) 4-6 月期実質 GDP (前年比/改定値)	+2.0%	+2.2%	+1.5%
	(中国) 7月輸出 (前年比)	+1.0%	+8.0%	+11.3%
	7月輸入 (前年比)	+4.7%	+7.0%	+6.3%
	(香港) 4-6 月期実質 GDP (前年比)	+1.1%	+1.2%	+0.7%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### 【豪州】 ~雇用環境の堅調さが確認されたことで、追加利下げが行われる可能性は一段と後退している~

9日に発表された7月の失業率(季調済)は5.2%となり、前月(5.3%(改訂値))から+0.1p改善した。雇用者数も前月比+1.4万人と前月(同▲2.8万人)から増加に転じており、雇用形態別でも正規雇用者(同+0.9万人)の増加が非正規雇用者(同+0.5万人)を上回った。失業者数は前月比▲0.3万人と3ヶ月ぶりに減少しており、正規雇用に対する求職者数は3ヶ月連続で増加したものの、非正規雇用に対する求職者数の減少が影響している。足下の雇用は東部を中心に堅調に推移しており、底堅い内需を背景にサービス業などの雇用創出の動きを反映している。豪州準備銀は、7日に開催した定例の金融政策委員会において2回連続で政策金利を3.50%に据え置く決定を行い、足下の国内景気について内需が力強いとの判断を示している。足下の雇用環境の堅調さが確認されたことで、追加利下げが行われる可能性は一段と後退したと判断される。

図1 AU 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 AU 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [インド] ～内需の鈍化を反映して生産に下押し圧力が掛かる中、先行きは一段と厳しさが増す見通し～

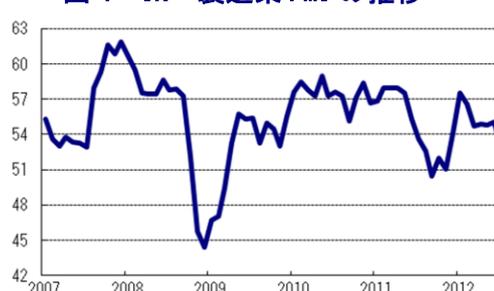
9日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比▲1.8%となり、2ヶ月ぶりに前年割れに転じた。前月比も2ヶ月ぶりに減少しており、鉱業部門のみならず製造業部門でも生産縮小の動きが出ている。分野別では、基礎財で底堅い動きがみられたが、足下の個人消費の減速を反映して消費財は減少に転じたほか、内需全般の鈍化により中間財や資本財にも生産圧縮の動きが広まっている。なお、今月初めに発表された7月の製造業PMIは依然景況感の分かれ目となる50を上回ったものの、2ヶ月ぶりに悪化しており、足下の「生産」のみならず、先行指数である「新規受注」や「輸出向け新規受注」も悪化するなど、先行きの生産を下押しする懸念は燻る。さらに、先月に大手自動車メーカーの工場で発生した暴動の影響で操業停止状態が続いていることから、裾野産業を含めた生産への影響も懸念されている。今月初めに発生した大停電の余波も残るなど、先行きの生産を巡っては厳しい状況が予想される。

図3 IN 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 IN 製造業PMIの推移



(出所) Markit より第一生命経済研究所作成

### [韓国] ～景気の下振れリスクは燻るが、先月の利下げの効果を見極めるため、政策金利を据え置く～

9日、韓国銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を2ヶ月ぶりに3.00%に据え置く決定を行った。同行は先月の定例会合において、事前予想を覆す形で3年5ヶ月ぶりの利下げを決定しており、その効果を見極める姿勢を示したと判断される。同行は世界経済について欧州問題の不透明感を反映して鈍化しており、同国経済についても減速感が強まっているとの見方を示しており、同国の需給ギャップはしばらく続く可能性を懸念している。一方、原油市況の調整や天候改善による食料供給の安定を背景に物価上昇圧力は後退しており、7月のインフレ率及びコアインフレ率はともに同行の定める目標域に収まっており、しばらくは低水準で推移するとの見方を示している。不動産市況も調整しており、地方部を中心とするバブル懸念も後退しつつある。さらに、金融市場の混乱が一服したことで通貨ウォンの対米ドルレートは落ち着いており、景気減速や先月の利下げの影響で長期金利は低位で安定している。なお、委員会後の会見において金中銀総裁は、同国経済が世界経済の不透明感による下振れリスクに直面していると指摘していることから、今後の金融市場の動向によっては追加利下げが行われる可能性は高いと予想され、来月予定の次回会合において追加利下げを実施すると予想する。

図5 KR 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 KR インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [香港] ～外需低迷が景気の重石になる中、政策余地は限定的であり、先行きも厳しい状況が予想される～

10日に発表された4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+1.1%となり、前期(同+0.7%)から加速した。ただし、前期比は▲0.1%と前期(同+0.4%)から4四半期ぶりにマイナス成長に転じており、世界経済の減速による貿易縮小で輸出が大幅に鈍化するなど、外需の低迷が景気を下押ししている。足下の雇用環境は依然堅調であり、観光客数も底堅い流入が続いているものの、中国本土の景気減速に伴い資金流入が縮小していることに加え、国際金融市場の混乱により海外資金が流出したことが信用収縮に繋がり、個人消費をはじめとする内需を下押しした。同国の通貨制度は実質的に米ドルとペッグしていることから、金融政策の自由度は極めて限定的である。政府は減税策のほか、インフラ投資の拡充をはじめとする財政支出の拡大を通じて景気を下支えする姿勢を示しているが、貿易量の劇的な回復は見込みにくいことから、外需の低迷は引き続き景気の重石になると予想される。

図7 HK 実質 GDP 成長率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 HK 雇用環境の推移

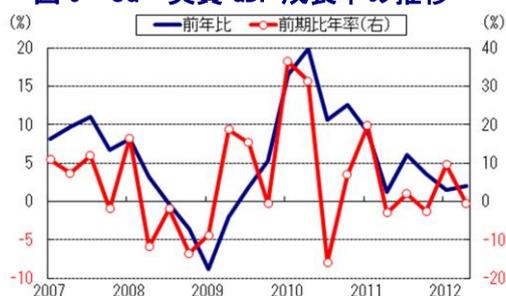


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール] ～堅調な雇用を背景に内需は底堅い一方、外需は景気を下押ししている～

10日に発表された4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+2.0%となり、前期(同+1.5%)から加速したほか、先月発表された速報値(同+1.9%)から+0.1p上方修正された。前期比年率は▲0.7%となり、前期(同+9.50%)から2四半期ぶりにマイナスに転じたものの、速報値(同▲1.1%)から+0.4p上方修正されている。産業別では、世界経済の低迷を反映して製造業及びサービス業ともに減速基調が強まったものの、建設需要の旺盛さを背景に建設業は堅調を維持している。他方、足下の堅調な雇用を背景に個人消費は緩やかに拡大し、政府による公共支出拡大も景気を下支えするなど内需は底堅いものの、アジア新興国を含む世界経済の減速に伴い輸出は鈍化しており、外需の減速が景気の足かせになった。なお、4-6月期については在庫投資の拡大が景気を下支えていることを鑑みれば、先行きは調整圧力が高まる可能性も予想され、引き続き景気を取り巻く状況は厳しい展開が見込まれる。

図9 SG 実質 GDP 成長率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 SG 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア] ～新興国向け輸出は底堅いものの、先行きの生産に下押し圧力になる材料は少なくない～

8日に発表された6月の輸出額は前年同月比+5.4%となり、前月(同+6.7%)から減速した。なお、前月比も+1.2%と3ヶ月連続で増加しており、世界経済を巡る不透明感は高まっているにも拘らず、ASEAN域内や中国などをはじめとする新興国向けが下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+3.6%と前月(同+16.2%)から減速しており、景気減速による国内需要の鈍化などを反映して前月比も▲10.3%と3ヶ月ぶりに減少している。結果、貿易収支は+91.98億リンギと前月(+46.03億リンギ)から黒字幅が拡大した。

9日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+3.7%となり、前月(同+7.8%)から減速した。前月比も2ヶ月ぶりに減少に転じており、分野別では鉱業部門に加えて製造業部門でも生産調整圧力が強まっていることから、世界経済の減速を反映して先行きの輸出が鈍化している可能性も窺われる。来年には民間企業に対して定年年齢の引き上げを義務付ける法律が施行される可能性があるほか、実質的な最低賃金の引き上げも予定されており、企業のコスト上昇が生産の下押し圧力に繋がる可能性もあろう。

図11 MY 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図12 MY 鉱工業生産の推移

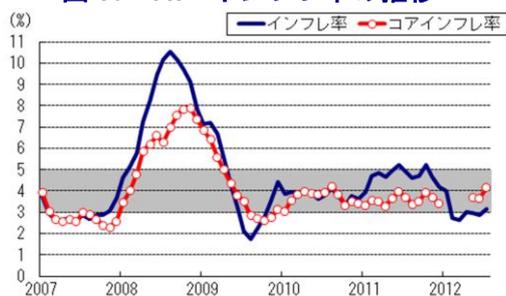


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [フィリピン] ～インフレ率は目標域内に留まるが物価上昇リスクは燻る。追加利下げの可能性は後退～

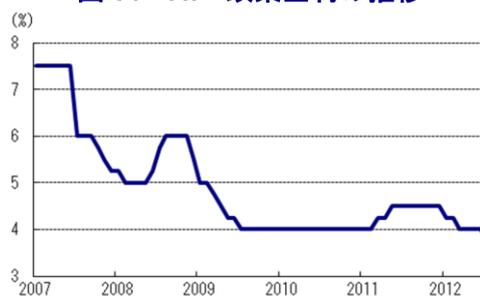
8日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+3.2%となり、前月(同+2.8%)から加速した。一方、前月比は+0.31%と前月(同+0.39%)から上昇ペースは減速しており、原油価格の調整を背景とするエネルギー価格の下落などにより物価上昇圧力は後退している。コア物価も前年同月比+4.14%と前月(同+3.66%)から加速しているものの、前月比は+0.55%と前月(同+0.63%)に比べて上昇ペースは減速している。なお、インフレ率及びコア物価ともに金融当局の定める目標域(3~5%)に収まっていることから、金融政策の方向性が急速に変わる可能性は低いと思われる。ただし、依然として内需は堅調に推移していることに加え、電力料金の引き上げが予定されるほか、足下では穀物価格の急騰により食料品価格の上昇リスクが高まっている。金融当局は先月の定例会合において3回ぶりに利下げを実施したが、先行きについては追加利下げに踏み切る可能性は低下するであろう。

図13 PH インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図14 PH 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾] ～輸出を取り巻く環境は厳しさを増す中、必需品を中心とする物価上昇懸念は高まりつつある～

6日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+2.46%となり、前月(同+1.87%)から加速した。前月比も+0.25%と前月(同+0.12%)から上昇ペースが加速しており、食料品価格の上昇基調が続いていることに加え、原油市況の調整を背景に下落が続いてきたエネルギー価格が上昇に転じたことも影響している。なお、コア物価は前年同月比+0.62%と前月(同+0.52%)から加速したものの、依然低水準で推移しており、前月比も+0.03%とわずかな上昇に留まっている。世界経済に不透明感が燻っていることで景気減速が懸念されるなど物価上昇圧力は後退しているものの、足下では穀物価格の急騰による食料品価格が上昇する可能性があり、先行きにおいてはスタグフレーションに直面することも懸念される。

7日に発表された7月の輸出額は前年同月比▲11.7%となり、前月(同▲3.2%)からマイナス幅が拡大した。前月比も▲4.8%と3ヶ月ぶりに減少しており、最大の輸出相手である中国本土をはじめとするアジア諸国向けのほか、景気減速が続く欧米先進国向けも減少基調が続くなど足を引っ張っている。一方の輸入額は前年同月比▲3.2%と前月(同▲8.4%)からマイナス幅が縮小しており、前月比は+3.5%と3ヶ月ぶりに増加に転じた。原油価格の調整一服に加え、日本や中国本土のほか、欧米先進国からの輸入に底入れの動きが出ており、輸出財を生産する際の原材料需要に底打ちの兆しも窺われる。結果、貿易収支は+9.04億ドルと前月(+25.76億ドル)から黒字幅が縮小した。

図15 TW インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図16 TW 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上